

Title	序にかえて
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.6, 1995.3 : 3-4
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3400
Rights	

SERVE

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

序にかえて

本号の第一部には「デモクラシーの研究」の研究成果を載せた。一九九二年度に開始され、三年に及んだ「デモクラシーの研究」(研究代表・酒井文夫聖学院大学政治経済学部教授)は、当研究所の最初の共同研究の主題であった。本研究主題に対して、日本私学振興財団の「学術研究振興資金」(第十六、十七、十八回)の援助を受けることができたことは、審査のある助成金を受けたという意味で、研究が外部においても評価されたという証左である。

研究会は、毎回、レジュメに基づいた、約一時間の研究発表とその後、ほぼ二時間(時にはそれ以上)にわたる意見交換によって構成された。意見交換といつても通常考えられるのは、それぞれの専門領域からの質問であり、それに対する発表者の回答であるが、研究会で行われたことは、質問と回答に留まることなく研究会に参加するメンバーひとりびとりがそれに加わる「討論」に基づいた共同研究となったことである。

永岡 薫聖学院大学総合研究所教授は、「イギリス・デモクラシーとピューリタニズム」において、A・D・リンゼイのデモクラシー思想の骨格に、「討議」discussionがあると見ておられるが、この研究会が、そのような意味での討論を積み重ねることにより、デモクラシー理解の共通の視角を形成することができたし、また、研究会のひとつのスタイルを生み出すことができたことは、別の意味でひとつの研究成果であったと自負している。現在もこのスタイルは「自由の伝統の再検討」の研究会に受け継がれている。

第二部には、英語教育研究、ロンドン経済政治大学教授のG・トイプナー教授の講演記録、そして当研究所の所員、講師のそれぞれの研究発表が収められている。

一九九五年三月

聖学院大学総合研究所